

令和5年度学校自己評価システムシート

目指す学校像	建学の精神「自立した個人の育成」を踏まえ、「質実・英知・愛敬」の校訓を具現化するとともに、新しい価値を創造する人材を育成する。
--------	---

学校評価委員会

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> どのような力を生徒に育成するのかを明確にし、教育活動を見直し改善していく。 生徒の学習意欲や進路意識を高め、進路実現を図る。 安心で安全な教育環境を整え、規律ある学校づくりを推進する。 保護者(後援会)・同窓会・地域との連携を密にして、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者・第三者評価実施日とは、最終回の学校関係者・第三者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	第三者委員	5名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						学校関係者・第三者評価	
令和5年度目標					令和5年度評価(令和6年3月31日現在)		実施日 令和6年2月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	昨年度からはじまった3コース制が、1・2学年で運用される。生徒の資質・能力や進路希望などが異なるため、コース毎に設置したコース会議を軸に学力の向上を図っていくことが課題である。「総合的な探究の時間」の中心に位置づけている研修旅行を、希望により海外と国内で実施する。その成果を踏まえて論文作成に繋げていく取り組みが課題である。	<ol style="list-style-type: none"> コース毎に実施する独自の取り組み。 グローバル人材の育成について、継続及び新規事業の取り組み。 「総合的な探究の時間」の取り組み。 	<ol style="list-style-type: none"> 各コースの特性を踏まえたガイダンスや課題研究学習を実施し、生徒一人ひとりが適切な将来設計ができるような教育支援を行う。 イングリッシュキャンプ後に実施する希望制の活動計画(GLコース)の作成、海外(希望制)研修旅行実施に向けた準備を実施する。インターナショナルプログラムのうち、新規に実施する海外大学進学説明(1,2年)及び夏の英語プログラム(2年)の具体的な運営と評価を行う。 1年次からの取り組みが、2年次でのテーマ別研修及び現地調査に役立っているかを検証する。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが将来を具体的に考え、計画を立てることができているか。 実施した新規事業について、生徒・保護者の満足度調査を実施し、その結果を次年度以降の改善に繋げることができたか。 各個人が決めた研究テーマに沿い、論文を完成させる準備が進められているか。 			
2	学習意欲を向上させ、自立自らの精神を養うための指導を継続して行っていく。特に今年度は、自学自習の習慣化についての定着を図っていくことが課題である。進路指導関係では、将来の職業を見据えた大学選びや学部選びが主体的に行えるように進路指導を行っている。そのために、1年次からはじまる進路計画で一人ひとりの進路実現を図るため、3年間の段階的なプログラムを実施していくことが課題である。	<ol style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立と学習時間の増加 自学自習を促すための環境づくり 主体的・自主的な進路選択力の育成 教員の資質向上への取り組み 	<ol style="list-style-type: none"> 担任がクラッシーを有効活用し、日々の学習記録の確認を積極的に行い、学習時間を増加させる。 特別自習室と図書館の自習スペースの利用時間の延長を望む声に応える。それに合わせて、安全対策についての方策を検討する。 本校が発行している「進路情報の手引きとデータ編」を計画的に活用し、HRを中心に発達段階に応じた進路指導を実施する。 授業評価アンケートの実施や研究授業を通して授業改善に取り組み、授業力の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲や生活リズムが維持できたか。昨年度と比較して家庭の学習時間が増えたか。 昨年度と比較して2つの自習室の稼働率が上がったか 大学出張講義(1年次)、ブース形式で行う学校別分科会(2年次)を通じて、進路意識が高まったか。今年度からの高大連携事業が生徒の進路実現に繋がっているか。 生徒の学校満足度調査の結果を前年度と比較し、教員の授業力の向上が図られたか。 			
3	第一グラウンドは、雨天等で体育の授業や部活動の活動に支障をきたしている。人工芝生化により、翌日にはグラウンドが使用可能となり、授業・練習環境は向上する。生徒は規律ある学校生活を送っている。今後も生徒がさらに主体的に判断し、他者と協力・協働できる意識を醸成していくことが課題である。	<ol style="list-style-type: none"> 人工芝化工期の教育活動の工夫。 基本的な生活習慣の確立 部活動・生徒会活動・学校行事の充実 成人教育の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 9月下旬から翌年3月下旬までの工期に、授業や部活動の活動が円滑にできるように、人工芝化検討委員会や関係機関との連携を強化する。 昨年度から実施している風紀委員会の「校則見直しのためのアンケート」を継続して実施し、見直しを図る。 コロナ禍における対策が緩和し、より生徒の主体性を育む観点から、部活動・生徒会活動・学校行事をさらに活性化させる。そのために教育活動全てに係る適切な対応の見直しを図っていく。 成人教育外部指導者及び本校の家庭科・公民科等の教員で実施し、生徒の意識を喚起する。 	<ol style="list-style-type: none"> 検討委員会や関係する教職員が連携し、教育活動が停滞しないような工夫が見られたか。 校則の見直しをすることで、生徒がより主体的に校則をとらえる事ができるようになったか。 生徒会主催の学校行事で、主体的な活動が見られたか。部活動の実績が昨年度同様かそれを上回ったか。 講演会や教科指導等で、生徒の意識が変わったか。 			
4	学校行事や部活動の様子をタイムリーに発信し、開かれた学校を目指している。さらに地域や保護者との連携を密にし、学校からの情報発信を積極的に推進している。昨年同様に中学校・塾や地域との連携を強め、教育実践や教育活動についての広報活動を推進し、生徒募集に繋げていくことが課題である。	<ol style="list-style-type: none"> 信頼にこたえる開かれた学校づくり 情報発信と生徒募集の強化 	<ol style="list-style-type: none"> コロナ禍により学校評価委員会や第三者委員会は、開催の中止や延期があったが、今年度は定期的に委員会を開催する予定である。各委員からの意見を参考にし、さらに開かれた学校づくりを推進していく。 HPを通して学校の最新情報を発信し続ける。また、教職員が一丸となり、新体制の特色を強く打ち出していく。塾訪問・中学校訪問・個別相談会を実施して行く。 	<ol style="list-style-type: none"> 開催した各委員会を通じて、委員と教職員が活発な意見交換を行い、その成果を学校運営や改善に役立たせることができたか。 学校説明会や個別相談会を通じて、募集人員に関する分析を行い、目標とする定員確保ができたか。 			